

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

| | | | |
|--------|---|-----------------|--------------------|
| 科目タイトル | 化学物質総合管理学3 | | |
| 科目概要 | 一般工業用途に使用される化学物質が人の健康や環境生物の生態にもたらしうるリスクを評価し、そのリスクを化学物質の製造・輸入・使用の規制や事業者の自主管理によって低減させる取り組みが、先進国を中心に世界各国で進められつつある。こうした取り組みに関連する我が国や欧米の法制度、基礎となる科学技術、取り組みを進めてきている国際機関の活動を概観し、今後の化学物質管理の方向やあり方を考えていく上での基礎的・体系的知識を講義する。 | | |
| | 共催機関名: | レベル: [専門・基礎、中級] | 講義枠: 木 18:30~20:00 |

| サブタイトル | No. | 講義タイトル | 講義概要 | 講義日 | 講師名 | 所属 |
|----------------|-----|--|--|----------------------|-----------|------------------------|
| はじめに | 1 | 講義内容の概説と目的 | 講義目的、講義概要、評価方法、学習の補助資料などに関するガイダンスを行う。 | 9/9 18:30-20:00 | 関 成孝 他 | 経済産業省製造産業局 化学物質管理課長 |
| 我が国の化学物質管理政策 | 2 | 関連法規の体系と化学物質審査規制法等の位置付け | 化学物質が人の健康や動植物の生態にもたらしうるリスクを評価し、製造、使用、排出等に関して必要な規制を行う我が国の関連法規(化学物質審査規制法、化学物質排出把握管理促進法、オゾン層保護法、農薬取締法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法等)の体系・歴史と各々の法律の分担関係を解説する。 | 9/16 18:30-20:00 | | |
| | 3 | 化学物質審査規制法 (1) 現行法の仕組みとこれまでの運用状況① | 化学物質審査規制法は昨年5月に改正され、改正法は本年4月に施行されている。改正後の同法の仕組みとこれまでの審査の実績、規制の状況や効果等の運用状況について解説する。 | 9/30 18:30-20:00 | | |
| | 4 | 化学物質審査規制法 (1) 現行法の仕組みとこれまでの運用状況② | | 10/7 18:30-20:00 | | |
| | 5 | 化学物質審査規制法 (2) 法律の基礎となっている科学技術と国際動向① | 化学物質審査規制法に基づく新規化学物質の事前審査の基礎となっている科学技術(試験・評価方法、リスク評価の考え方・手法等)、欧米の類似法制度の特徴等について解説する。 | 10/14 18:30-20:00 | | |
| | 6 | 化学物質審査規制法 (2) 法律の基礎となっている科学技術と国際動向② | | 10/21 18:30-20:00 | | |
| | 7 | 化学物質排出把握管理促進法 (1) 現行法の仕組みとこれまでの運用状況 | 人の健康や動植物の生態にリスクをもたらす可能性があるものの、リスクの定量的な評価が必ずしも容易でない種々の化学物質について、PRTR制度の実施、安全性データシートの流通促進等によって事業者の自主管理を促進し、リスクの低減を期する化学物質排出把握管理促進法の仕組み等について解説する。 | 10/28 18:30-20:00 | | |
| | 8 | 化学物質排出把握管理促進法 (2) 法律の基礎となっている科学技術と国際動向① | 化学物質排出把握管理促進法の対象となっている化学物質の選定の考え方や着目している有害性、化学物質の排出・移動量の把握・推計方法、安全性データシートの記載情報と役割、人の健康や動植物の生態に対するリスクの評価手法等の科学技術的知見を、関連する欧米の動向も含めて解説する。 | 11/4 18:30-20:00 | | |
| | 9 | 化学物質排出把握管理促進法 (2) 法律の基礎となっている科学技術と国際動向② | | 11/11 18:30-20:00 | | |
| | 10 | オゾン層保護法・フロン回収破壊法に係わる政策(1) | オゾン層保護やフロンの回収・破壊に関する条約・国内法の趣旨・概要と歴史、背景にある科学技術・国際動向、これまでの運用実績等について学習し、国際世論が牽引力となって進められている化学物質管理政策に関し説明する。 | 11/18 18:30-20:00 | | |
| | 11 | オゾン層保護法・フロン回収破壊法に係わる政策(2) | | 11/25 18:30-20:00 | | |
| | 12 | 化学兵器禁止法に係わる政策 | 化学兵器の製造、使用等の禁止に関する条約・国内法の趣旨・概要と歴史、背景にある科学技術・国際動向、これまでの運用実績等について解説し、国際世論が牽引力となって進められている化学物質管理政策に関し説明する。 | 12/2 18:30-20:00 | | |
| 化学物質管理に係わる国際動向 | 13 | OECDや国連での化学物質管理活動と日本の取り組み | 1970年代から科学技術的知見の充実を中心に加盟各国の化学物質事前審査制度等の調和を目指すOECD活動や、1992年の地球環境サミットを契機として新たな条約の整備を中心に世界各国の化学物質管理の充実を目指す国連活動の歴史や現状を解説し、世界各国の協同的取り組みの意義について説明する。 | 12/9 18:30-20:00 | | |
| | 14 | 化学物質管理の新たな枠組: GHS | 化学物質の物理化学的危険性や毒性等の有害性の重要項目と各々の性質の強弱に関する分類基準を統一し、それに基づく分類結果について表示や安全性データシートによる統一的な情報伝達を行うルールを定めたGHSの内容、その意義や我が国での活用の見通しについて解説する。 | 12/16 18:30-20:00 | | |
| 講義のまとめ | 15 | 更なる課題 | 将来に向けて化学物質管理や関連する行政の課題となっている諸問題(リスクの評価・管理に係る科学技術的知見やその情報発信・活用の更なる充実、国内外の法的枠組への反映、産業界の取り組みの方向等)を概観し、新たな取り組みの方向や可能性に関して、解説する。 | 1/13 18:30-20:00 | | |